

健康福祉教育委員会 行政視察報告書

【視察日】 令和7年10月23日（木）

【視察委員】 山川智己委員長、山本信行副委員長、川島美希子委員、神戸好伸委員
油井和行委員、遠藤久仁雄委員、岡村好男委員

【視察先】 愛知県尾張旭市

【調査事項】 認知症対策（あたまの元気まる事業）について

① 市の概要

尾張旭市は、人口約 83,600 人、面積約 21 km²。愛知県の北西部に位置し、名古屋市に隣接するベッドタウン。愛知県森林公園など緑豊かで、住環境が整った「公園都市」として知られている。住みやすい環境と健康都市づくりを推進している。



② 取組の経緯・内容

尾張旭市では、認知症高齢者の割合が増加したことから、認知症前段階の「軽度認知障害（MCI）」の早期発見・対応として、リニューアル前の『あたまの元気まる』事業（軽度認知障害のリスク評価）をスタートさせた。1対1の対面で認知度チェックテストの指示に従い実施するものであったが、対面による緊張や時間がかかる等の理由により受検率は減少していった。

そこで令和6年度から、VRを使用した認知機能セルフチェックの『あたまの元気まる』事業にリニューアルされ、利用者の増加や軽度認知障害の早期発見・対応の周知をさらに拡大させている。

リニューアル前の方法と比べ、受検時間が相当短くなったことや簡易的ではあるが結果がスコアとしてすぐに確認できることなどから、利用者の増加にもつながり周知が広まってきている。

③ 今後の課題

令和6年度においては受検者数が515名であり、リニューアルする前と比べて増加している。そうした中でも、受検者の男女比に違いがあり、女性のほうが受検者数が多い傾向にあるため、いかに男性高齢者の参加を促していけるかが重要となる。

1回の受検だけではなく、継続して受検してもらうことも軽度認知障害の早期発見には有効であるため、再度の案内等もしていくことも必要と考えられる。

また、目の動きによる検査のため、目に疾患がある方は受検できないこともある。

④ 本市に反映できると思われる点

VR ゴーグルによる受検方法は、事前にチュートリアルが組み込まれているため敷居が低い印象だと感じた。リースによるものでありそれほど高額な契約でもないため、事業として取り入れるハードルは低いと思われる。

こうしたセルフチェックの重要性を市民の皆さんに周知し体験していただくことが重要で、軽度認知症や認知症との関連性まで含めて理解の輪を広げ、市民とともに認知症対策を講じていくことは、「藤枝市認知症とともに生きる共創のまちづくり条例」の理解・周知を広めていく本市にとっても有効であると思われることから導入に向け検討すべきと考える。

